

(頁) (行)

(誤)

(正)

二二	七	一切やりません、	一切やりません。
二三	七	いいのだろう	いいだろう
二六	六	上海に着いて	上海へ着いて
二九	八	洗面用具	洗面道具
三一	三	私もその中で、「胡	私もその中で「胡
同	一一	残すわけにいかない	消すわけにはいかない(全集正誤表による)
同	一一	だけでなく、	だけでなくて、
三七	後三	国がだめだという	国がだめという
四一	後五	いないから、中国	いないから。中国
四二	四	何も	まず、何も
四九	二	『月報』雑誌化する	『月報』、雑誌化する
五一	七	ひどい部分は	ひどい部面は
同	後五	某日、本日も	某日。本日も
五四	八	青青としている。	青々としている。
五六	七	比にあらず、やはり	比にあらず、やはり
五八	六	ではないと思われた	でないと思われた。
六〇	八	夕食を食って	夕飯を食って
七六	五	この根本に	その根本に
七八	最終	よって、無意味化	よって無意味化
七九	一	よって生前	よって、生前
八二	一一	魯迅はたしかに、	魯迅にはたしかに
同	後三	宗教的であった。と	宗教的であった、と
八八	一	(『墳』の後に記す)	(『墳』の後に記す)
九一	六	虚妄となることは	虚妄なることは
九二	一一	笑われるべきである	笑われるべきである
九五	五	以下に連なる	以下に連る
同	五	『南腔北調書』	『南腔北調集』
九三	二	相手に、あらゆる	相手にし、あらゆる
同	五	設定した	設定された
九五	五	結論を設けて	結構を設けて
一〇三	最終	何故であろう。か	何故であろう。か
一一一	九	覚書きは	覚書は
一一六	一一	纂奪には	纂奪には
一一〇	一一	外でもない。彼は	外でもない、彼は
一一三	後二	纂奪計画	纂奪計画
一一三	最終	掲げまして	掲げまして
一一五	二	影響であつて今日	影響であつて、今日
一一七	後二	去年はジャーナリズム	去年は、ジャーナリズム
同	六	講話とか、	講和とか、
一四四	後二	向けさせている	向けている
一四六	四	憎む勘定が	憎む感情が
同	一〇	深められていない	深められていかない
一五一	一	主観的に	主観的に

一五二	三	反共産主義者	反共主義者
同	最終	胡兆民先生追悼会	故兆民先生追悼会
一五五	後四	一九四〇年出版	一九四〇年の出版
一五七	五	とらえている、風俗	とらえている。風俗
一五九	五	理想的なタイプ	理想的タイプ
一六五	三	「モチイフが	「モチイフを
一七一	後五	「国境が突破されて	「国境線が突破されて
一七三	後九	「ルビ」ボーヤ	「ルビ」ボーヤ
同	同	癒やそうとした	癒やそうとした
一八六	最終	命題ひとつが	命題のひとつが
一八八	六	眺められたものは	眺められたのは
一九〇	一〇	東洋における抵抗	東洋における抵抗
一九一	一五	敗北という事実	敗北は、敗北という事実
同	一	わけにはいかない。	わけにはいかない。
一九四	一	真実の概念でない	真実の概念でない
二〇四	後四	言葉を捨てて、別の	言葉を捨てて別の
二〇七	後五	先へ出る、かれらは	先へ出る。かれらは
二〇八	後二	ひっくるめて日本	ひっくるめての日本
二〇九	三五	模倣	模倣
二一〇	一	ないから、士官	ないから。士官
二二五	九	御茶の水	お茶の水
二二七	九	漢字が復活	漢字が復活
二二三	一一	もつともよく適合	もつとよく適合
二三四	最終	譲歩をもつて、ついに	譲歩をもつてし、ついに
二三九	八	敵の強大さと	敵の強大と
二四三	四	支払わねば	支払わなければ
二四四	六	ヒューマニスト	ヒューマニスト
同	後五	固定的なものに	固定的な質的なものに
二四五	後二	反共産主義者	反共主義者
二四六	九	したがって	したがって
同	後四	生じた。とかれは	生じた、とかれは
二四八	後四	表現おける	表現における
二四九	四	自身のあるもの	自信のあるもの
二五一	五	中国が、国際的	中国が国際的
二五五	十一	熟語にも見られ	熟語に見られる
二六三	四	思想が測れる	思想が測られる
同	後二	しかしながら、又	しかしながら又
二六六	後三	唱道する	唱導する
二六七	最終	重きを置く、いずれに	重きを置く。いずれに
二六八	三	日清戦争三国干渉	日清戦争後三国干渉
同	八	助けたという史観	助けたという史観
二七二	六	日露戦争までの日本	日清戦争までの日本
同	九	自分に課するように	自分に課するように
二七三	四	荒尾清	荒尾精（全集の誤植）
二七七	後二	閔氏一族が	閔氏一派が
二七九	四	国権論	国権論（全集の誤植）
二八〇	後八	実績は、民選	実績は、民選

二八一 後二 なるべし、故に、
二八二 八 〇 われわれ国を取る
同 一〇 溯りて
二八三 九 一新するのは
二八六 後一 謀り、同年、
二八七 三 謀る一方、
同 後一 苦心の想像に
二九八 後三 設立した。
三〇〇 後二 燃やしてしまった
三〇二 七 三か月、
同 後五
三一 九 曰く、『中江は
三二二 後三 ものじゃった。』
三三三 三 同じ年に
三二九 九 拮抗をもつて
同 後五 徐徐として
三二八 十一 革まる革命とい
三四二 九 どういう因果で
三四三 一 きでました。
三四八 六 真理追求の
三五六 一 その現況を
三六八 後三 人民の意志とは
三六九 四 一九七二年十月号
三七二 三 対日管理機関
三九二 二 もし、同憂の
三九三 後三 なる。いや、
著者紹介 享年六七歳

なるべし。故に、
われわれは国を取る
溯りて
一新するのは
謀り、同年、
謀る一方、
苦心の想像に
創立した。
燃やしてしまった
三か月、
行頭一字詰める
曰く、中江は
ものじゃった。
おなじ年に
拮抗もつて
徐徐として
革まるを革命とい
どういう因縁で
できました。
真理追求の
その現況を
人民の意思とは
一九七一年十月号（全集の誤植）
対日管理機関
もし同憂の
なる。（改行、一字下げの後）いや、
享年六六歳（満年齢表記に変更）